

漁村生活改善士研修会で海洋環境の変化について講義しました

令和7年6月10日に山口県庁で山口県漁村生活改善士研修会が開催されました。本県の水産業をとりまく海洋環境の変化の影響について講義をして欲しいという要望にお応えして、「変化する海洋環境や魚種にどのように対応するのか」と題して、当所の渡邊専門研究員と和西専門研究員がそれぞれ日本海側、瀬戸内海側の海域の状況について説明しました。

日本海側では61年の観測の結果、海面水温が1.46℃上昇していることや、1990年後半を境に冬季と秋季が高温になっていること、2010年代後半は季節を通して高温になっていることを説明しました。

それに伴い、特にクエやアカハタなどの南方系のハタ類が見られる機会が増えたことや、サワラの漁獲が増えたことを説明しました。

しかし、日本海側の主要魚種であるマアジやケンサキイカの不漁が続いていると説明をしました。

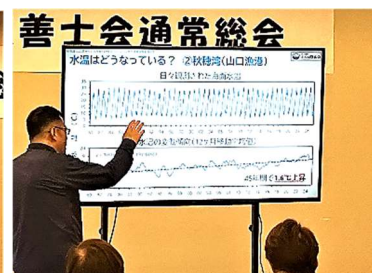
また、瀬戸内海側では45年間に海面水温が1.6℃上昇していることや2025年10月では10月の観測としては過去50年間で最高の27.3℃が観測されたことを説明しました。全国的な規模で獲れる魚が変わってきており、北海道では今まで獲れていなかったブリが大漁となり、学校給食でメニューに入れる等の活用をしていることを紹介しました。

地球温暖化の対応として、個人規模で気を付けることも大切ですが、水産業界として燃料消費量の削減や省エネ型漁船などの開発等の対策をするとともに、高温に強い品種による養殖をしたり、徐々に変化していく環境に対応した資源管理をしたりすることで適応していくことも大切であることを説明しました。

説明の後は活発な質疑応答がされ、漁村生活改善士のみなさんが環境に対して関心が深いことを認識しました。



渡邊専門研究員



和西専門研究員